

クレアソウル

Council of Local Authorities
for International Relations, Seoul



2012

NEWS TODAY VOL. 6

「届けたい!日本の元気。韓国の友情。」KOREA東北親善大使派遣事業

日本酒で、元気な日本と被災地の復興情報を発信!!

鳥取県物産展で日本の元気をPR!!

ソウル中心部である市庁広場前の日本居酒屋「とんあり」で日本各地方の魅力PR!!

にほんのあっちこっち

SBS 좋은아침:良い朝

JETプログラムから始まる日韓交流

多くの絆で繋がっている日韓の姉妹都市

韓国地方行政研究院との共同セミナー

自治体からの海外情報調査依頼

活動支援について

「届けたい!日本の元気。韓国の友情。」 ～KOREA東北親善大使派遣事業～

クアソウルでは、韓国外国語大学日本学部と連携・協力し、韓国の大学生6名を「KOREA東北親善大使」として、被災地3県(宮城、岩手、福島)に派遣し、「日本の元気」や「東北の魅力や楽しさ」を見て感じて、韓国へ元気な日本の姿を情報発信しました。

【開催概要】

- テーマ : 「届けたい!日本の元気。韓国の友情。」
 場所 : 宮城、岩手、福島 (被災地3県)
 派遣期間 : 2011年2月14日～19日
 メンバー : 韓国外国語大学学生(大学院生含む)6名及び教授2名、日本観光新聞記者
 情報発信 : ①韓国の観光業界新聞「日本観光新聞」に特集企画記事を掲載
 ②アジアナ航空HP、韓国外国語大学HP、駐韓日系政府機関等への旅行記掲載
 ③フェイスブックなどへの旅行記掲載(被災地からリアルタイムで)など



【日程】

	北チーム(宮城・岩手)	南チーム(宮城・福島)
2月14日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国(仁川空港)⇒日本(仙台空港) ・仙台市内(東北大学の留学生等との意見交換、交流) 	
2月15日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地南三陸町訪問(防災センター、ホテル観洋、オクトパス君作成現場、仮設商店街) ・語り部の話を聞く ・石巻市「道の駅上品の郷」訪問 	
2月16日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地訪問(岩手県) 狹鼻溪、平泉中尊寺など 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地訪問(福島県) いわき市長表敬、ハワイアンズ
2月17日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地訪問(宮城県) 塩釜、松島、瑞巖寺 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地訪問(福島県) 会津若松市長表敬
2月18日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地訪問(宮城県) 鳴子温泉 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地訪問(福島県) 大内宿、喜多方
2月19日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本(仙台空港)⇒韓国(仁川空港) 	





【訪問の様子】

2月8日、学生たちは、安本俊夫クレアソウル事務所長からKOREA東北親善大使の委嘱を受け、その後、武藤正敏駐大韓民国特命全権大使から「震災後、韓国の方々からは多くの支援と暖かい言葉をいただきました。これからの本当の支援は多くの方が東北地方を観光し、激励することです。若い皆さんが見たもの、聞いたものをそのまま伝えてほしいと思います。」との激励をいただき、訪問に臨みました。

被災地の宮城県南三陸町では、学生による献花が行われた後、語り部ガイドによる震災当時の様子の説明があり、学生たちは真剣に聞き入っていました。

また、東北大学の学生との意見交換も行われ、日韓の若者による活発な議論や交流が図られました。

訪問は、北チーム(宮城・岩手)と南チーム(宮城・福島)に分かれて行われました。

各被災地自治体の観光地を訪問し、学生たちは「日本の元気」や「東北の魅力や楽しさ」を体感しました。そして、被災地からリアルタイムで日本の元気を届けたい思いから、学生たちは毎晩遅くまで、フェイスブックなどで情報発信していました。

学生たちは、訪問地での地元メディアに対し、「自分の目で見た元気な日本の姿を韓国に伝えたいと思います。」と述べるなど、今後、各種イベントなどを通じて元気な日本の姿を届けたい気持ちでいっぱいの様子でした。

今回の事業を通じ、日本への観光客数の回復等への足掛かりとなることを期待します。

8. Feb.



【情報発信の様子】

取材を通じて、学生たちが感じた日本の様子が、このように発信されました。

「日本観光新聞」特集企画記事



「ホームページURL」

http://www.japanpr.com/jtt_special/78993

http://www.japanpr.com/jtt_special/78983

http://www.japanpr.com/jtt_company/78990

http://www.japanpr.com/jtt_company/79036

各種イベントでの
発表・写真パネル展示

「東日本大震災から1年感謝・復興・日韓友好
レセプション」

「JAPAN Festival in KOREA」

「ピョンテク JAPAN DAY」

フェイスブック等への旅行記掲載



「フェイスブックURL」

<http://facebook.com/tohokukorea>

【学生の報告より】(抜粋)

- ・ 韓国の友人から、日本にそれも被災地の東北地方になぜ行くのか？大丈夫か？という話を聞いたが、実際に東北地方に来てみると通常の時と同じような生活をしていた。これから正確な情報を韓国に伝え、日本に対するイメージを変えられると良い。
- ・ 私が韓国に居る間は、東日本地域の大部分が津波により、全てのものが流されていると考えていました。ですが実際に、被災地域の賑やかな繁華街、子供たちを乗せて自転車で走るおばさん、そしてバスを待っている小中学生等を見て、韓国と変わらない平凡な生活が行われていることを実感しました。私が当初考えていた被災地のイメージと異なり、とても不思議に思いました。
- ・ 東北大学の韓国人留学生は、被災当初は地震の被害により生活が困難だったと言っていたが、現在は地震の前と変わりなく勉強し生活していた。
- ・ 観光客がたくさん訪れ、温泉と日本酒、会席料理を楽しめるところが東北地方にもあった。日本人だけではなく韓国のおばさん達が来ている温泉もあった。生活は地震前と変わらないが、収入源の観光客が大幅に減ったという課題を持つ地域もあった。
- ・ 被害が深刻な地域にも行ったが、家も車も津波で流失した方から、震災直後の韓国からの支援が励ましになった、感謝するという言葉を頂き感動した。あの方々の力になりたい。



「東日本大震災から1年感謝・復興・日韓友好レセプション」

KOREA 東北親善大使 河昇彬さん・李ボルミさん・姜政漢さん・南スルギさん・梁熙晶さん・金曙暻さん

日本酒で、元気な日本と被災地の復興情報を発信!!

～韓国ソウルで「日本文化講演会・日本酒試飲会」を開催～



当事務所では、韓国ソウルにある日本の全ての自治体事務所と連携・協力し、「**日本酒に関する講演会・試飲会**」を開催しました。併せて、この機会を利用し、東日本大震災の復興情報や復興メッセージの発信に加えて、「**日本の元気**」を韓国ソウルから情報発信しました。

会場となった韓国外国語大学には、日本に対する関心が特に高い日本研究者及び日本語教育者、約200名が来場し大いに賑わい、好評を博しました。

我が国の農林水産省の調査によると、韓国には5,000店以上の日本食レストランがあるとされており、2010年の日本酒の輸出量は2005年の6.4倍というペースで急増しています（輸出量は米国に次ぐ2位）。また、日本酒は震災後もその輸出量が増加し続けている人気アイテムです。

加えて、韓国には日本語学習者が96万人もいて、世界最大の日本語学習国となっています。今回のイベントでは、その96万人の頂点に位置する日本研究者、日本語教育者の方々にお集まりいただきました。

韓国における日本酒の需要をさらに拡大するとともに、東日本大震災による日本のイメージダウンを払拭するためには、影響力のある韓国人からの情報発信「口コミ」が極めて効果的です。今回、ご参加いただいた先生方の学校での講義や口コミを通じて、「**日本酒の魅力**」や「**日本の元気、日本の安心・安全**」が韓国国内で幅広く伝わっていくことを期待しています。

【開催概要】

日時	2011年10月25日(火)
場所	韓国外国語大学ソウルキャンパス大講堂
対象	日本研究者及び日本語教育者 200名
主催	自治体国際化協会・韓国外国語大学
内容	① 日本酒の講演会・鏡割り・試飲会 (被災地を中心に約20銘柄の日本酒を紹介) ② 写真パネルや映像スクリーンによる被災地情報の発信 ③ 観光パンフレットの配布 ④ 生け花デモンストレーション





鳥取県物産展で 日本の元気をPR!!

クレアソウルでは鳥取県と協力し、2011年11月から12月の3週間にわたり、「鳥取県物産展」を、韓国の有名デパートである新世界百貨店京畿店、本店、江南店で開催しました。この事業は、韓国の著名百貨店で物産展を開催することにより、鳥取県の様々な特産品を韓国に紹介し県産品の消費拡大の足掛かりとするとともに、物産展における観光DVDの放映やパンフレットの配布などのPRを通して、韓国での鳥取県の知名度のアップを図ることを目的としたものです。鳥取県からは10社が出展しました。



2011年3月の東日本大震災の発生後、韓国首都圏で日本の食材を取り上げた物産展はこれが初めてのものです。このため、開催にあたりひとつ大きな心配がありました。それは原発事故の影響です。韓国では2011年5月1日以降に日本から輸出される食品については、その安全性を証明するために各都道府県が発行する「韓国向けに輸出される食品に関する証明書」の提出が義務づけられることになりました。このため、以前に比べ通関に手間と時間がかかることになってしまいました。

このように厳しい検査を通して韓国に輸入した食品でしたが、物産展当日までお客さんが来てくれるのか不安でした。

原発事故は韓国でも連日報道され、消費者が日本製品の安全性に敏感になっているのではないかと、日本産品というだけで敬遠されてしまうのではないかと心配したのです。韓国では近年健康志向が高まりを見せ、日本食が人気を集めてきました。しかしそれが原発事故を境に途絶えてしまうのではないかと心配したのです。

しかし、蓋を開けてみると会場は多くの人で賑わい、原発事故以降も変わらず日本食品に対する関心が高いことがわかりました。現場では法被を身にまとった販売員たちの実演販売も行われ、試食をするお客さんも多く、売り場は活気に溢れていました。だんご、もなか、いか天・げそ天、カレー、ワッフル・チーズケーキ、コーヒー、こんにゃく、べにずわい肉、らっきょう、どら焼き・まんじゅう、グラタン等が販売されましたが、中でも韓国人の好むだんごや揚げ物は人気が高く、非常に売れ行きが好調でした。

今回の物産展に先立ち8月に、鳥取県業者との商談会を鳥取県で開きました。この商談会には韓国の輸入業者であるオーガニックコリア社が現地に赴き、あらかじめリストアップされた商品を評価しながら、物産展でどう取り扱うかを決めました。日本で好まれている味が必ずしも韓国で好まれるわけではありません。また、日本から韓国に製品を持ってくると運送コスト、関税等で価格が割高になってしまいます。そのため販売価格や売り方、韓国人の好む味について業者間で事前協議をすることが大切なのです。

今回出展した企業は、物産展で肌で感じた韓国市場の反応を踏まえ、韓国に適した味、販売方法、価格を調整しながら韓国国内での継続販売の可能性を模索していくことになります。

今回の物産展では鳥取県の物産と観光を紹介しただけでなく、「元気な日本」をPRすることができたのではないかと思います。2012年3月には同じく韓国首都圏で香川県・愛媛県物産展を開催します。こちらでも現地での商談会(12月実施)を経て選ばれた商品が出展されます。





海外への食品の売り込みは嗜好や商習慣の違い、また貿易の知識が必要など難しいものです。しかしクレア事業では韓国の食品の専門家に商品選定を依頼し売れ筋商品を開拓・選定するほか、対韓輸出についても日本国内で買い取った後に韓国に輸出する方法を採っているため特別な知識は必要ありません。クレアソウルは今後とも物産展を通して日本の食文化を発信しながら元気な日本を伝えていきたいと考えています。食品の売り込みや観光PRのためこの事業を是非ご利用ください。

香川県・愛媛県物産展開催概要

場所、開催時期

3月23日(金)～3月29日(木) 新世界百貨店 江南店
3月30日(金)～4月05日(木) 新世界百貨店 本店
4月20日(金)～4月26日(木) 新世界百貨店 永登浦店

主な出展商品

香川	愛媛
讃岐うどん、わらび餅、 飴、日本酒、 オリーブオイル	じゃこ天、コロッケ、 蒲鉾、ケール・黒にんにく、 日本酒

(注：開催時期、出展商品は、3月15日時点の予定)



ソウル中心部である市庁広場前の 日本居酒屋「とんあり」で 日本各地方の魅力PR!!



「とんあり」は市庁前広場に面する好立地にあり、日本人により運営されている、本当の日本の味を提供していることで有名なお店です。クリアソウル事務所は3月より、この「とんあり」にご協力をいただいて、月替わりで日本の各地方の魅力をPRしていくこととなりました。

第一弾である3月は静岡県ソウル事務所と連携して「静岡を飲みに行こう!」と題して静岡県をPRしています。

店内では静岡県のポスターの掲示、観光DVDの上映、パンフレットの提供、静岡県で製造されているプラモデルや静岡ゆかりの漫画キャラクター「ちびまる子ちゃん」に関する展示等、工夫を凝らした静岡県のPRがなされています。

来店いただいたお客様には静岡産お茶が無料で振る舞われるとともに、静岡県産山田錦を100%使っている静岡県のお酒「花の舞」を試飲できる上、このお酒を通常販売価格よりも大幅に安く購入していただけるキャンペーンを実施しています。

また、期間中のお客様の中から抽選で静岡県産の商品をプレゼントするというお楽しみ企画も行っています。

このイベントを通じて韓国の方に静岡県の魅力を目と舌で複合的に味わっていただくことで、観光誘客のためのPRをするともに、県産品である静岡茶や静岡のお酒の知名度の向上、ひいては取扱量の拡大を目指しています。

クリアソウル事務所では今後もこのイベントを継続し、日本の様々な地方の魅力を月替わりで韓国の方にPRして行く予定です(4月は秋田県)。今後の活動については随時、クリアメールマガジン等でも報告してまいります。



静岡産お茶



観光DVDの上映



静岡で製造されているプラモデル



ポスターの掲示・パンフレットの提供

★にほんのあっちこっち★

韓国著名漫画家による日本の魅力発信

韓国の著名漫画家ホ・ヨンマン画伯が、日本の各地を取材し、食や自然、さらには伝統文化について各地域の持つ魅力を韓国に向けて発信しています。

2011年度後半に取材した2地域(石川県、新潟県)での様子をご紹介します。

事業概要

取材期間 : 5~6日程度
 取材団 : ホ・ヨンマン画伯を含む4名程度
 PRの方法: 韓国の旅行雑誌、単行本書籍 等

実施状況

昨年までの実績(2009年~2011年度)
 取材回数: 16回 参加自治体: 1道16県3市

業務

自治体: 取材先に関する情報の提供、取材行程の作成、アポイントメントの取付及び現場での調整(通訳含む)、取材団の取材に係る経費の一部負担

CLAIR: 自治体と取材クルーとの事前調整、CLAIR職員による現地取材サポート、取材団の取材に係る経費の一部負担

【ホ・ヨンマン画伯の旅行記発行記念お披露目会開催】



ホ・ヨンマン画伯に取材していただいた全16回のうち、2009年度及び2010年度の11回分(1道11県3市)について紹介した単行本「食客ホ・ヨンマンのおいしくつろぎました」が2011年10月に発行されました。それを記念して、2011年11月3日に、ソウル市のホンデ(弘大)にあるレストランCafeSOURCEにて発行記念お披露目会を開催しました。

ホ画伯は「このような発行記念お披露目会は初めての経験でとてもありがたく思います。多くの方々に、この本を読んで日本の各地を旅行していただき、また日本の伝統の味を知っていただきたいと思います。」と述べました。

お披露目会ではサイン会も行い、直筆サイン入りの単行本を、ホ画伯が出席者全員に直接手渡しました。

単行本は新聞の書籍欄でも紹介され書店では大変好評です。



001 ISHIKAWA イシカワ

「はじめに」

石川県には豊かな自然の恵みを活かした「食」の魅力、各地で受け継がれている祭礼や加賀藩の時代に築かれた城や庭園、街並みなどの「伝統文化」の魅力がありました。

「食の魅力」

食の魅力について、「加能ガニ」をはじめ、「加賀野菜」や「能登野菜」など地元の恵みを使用した懐石料理を味わいました。ホ画伯は、料理が出されるたびに箸が進み、「素材の魅力を引き出す料理の技が素晴らしい」と大変満足していました。そのほか、奥能登産の新鮮な食材をふんだんに使用した「能登丼」、金沢の郷土料理で鶏肉と野菜の入った煮物「治部煮(じぶに)」など魅力あふれる数々の料理を取材しました。

「伝統文化の魅力」

数々の伝統文化が息づく、金沢市では、水戸借楽園、岡山後楽園と並ぶ日本三名園「兼六園」を取材し、ホ画伯は雪から樹木を守るため行われる「雪吊り」に関心を持ち、熱心にスケッチしていました。また、「金沢城公園」では復元された菱櫓(ひしやぐら)や五十間長屋(ごじゅっけんながや)などを見ながら、気になる点があるたびにガイドの方に質問していました。「ひがし茶屋街」では、石川県が全国一の生産量を誇る金箔の箸への貼付け体験を行いました。金箔は少し息がかかっただけでもめくり上がるほど繊細で、ホ画伯は慎重に扱いつつ綺麗に貼り付けることができ、とても喜んでいました。そのほか、金沢市で最も長い歴史を持つ酒蔵「福光屋」や、加賀藩時代を今に伝える「長町武家屋敷」を取材しました。

輪島市では、1,000年以上の昔から続く「輪島の朝市」を訪れ、ホ画伯は露店で売られている魚や野菜などの特産品を興味深く見ていました。また、「輪島工房長屋」では、輪島塗の歴史や作業工程の説明をしていただいたほか、職員の方の勧めで、漆が塗られた板に沈金での絵付けも体験しました。「キリコ会館」では、能登地方の祭礼に担ぎ出されるキリコ(御神灯)の迫りに感動していました。

羽咋(はくい)市では、日本で唯一、砂浜の波打ち際を車で(バスも!)走行できる「千里浜なぎさドライブウェイ」や、縁結びで有名な「氣多大社」を取材しました。和倉温泉では、懐石料理を味わいながら、石川県無形文化財の「御陣乗太鼓(ごじんじょうたいこ)」を鑑賞しました。

「おわりに」

石川県では「食」の魅力や「伝統文化」の魅力をじっくりと味わうことができました。ホ画伯が「急いで巡るのは旅ではない、ゆっくり巡るのが旅なのだ。」と述べたとおり、石川県で過ごした時間はとてもゆっくりと流れていたように感じました。

この取材で感じた石川県の魅力をこれから韓国国内に発信していき、韓国人観光客の誘致に努めて参ります。

13日



旅館の舞台上で繰り広げられる「御陣乗太鼓」

14日



奥能登産の新鮮な食材を使用した「能登丼」

15日



「兼六園」を散策するホ画伯

16日



「長町武家屋敷」で抹茶のスケッチ中のホ画伯

石川

Ishikawa

日程

- 11/13(日) 千里浜なぎさドライブウェイ
氣多大社
- 11/14(月) 輪島朝市、輪島工房長屋、
キリコ会館、能登丼
- 11/15(火) 金沢城公園、兼六園、治部煮、
福光屋、ひがし茶屋街
(金箔貼り体験)
- 11/16(水) 長町武家屋敷



002

NIIGATA

ニイガタ

新潟

Niigata

日程

- 2/25(土) 新潟アニメ・マンガフェスティバル2012新潟せんべい王国、北方文化博物館、せかい鮎
- 2/26(日) 塩沢宿・牧之通り、高半旅館「かすみの間」、苗場スキー場、ホテル双葉
- 2/27(月) 酒蔵(八海酒造)、HATAGO 井仙、ぼんしゅ館、長生館(村杉温泉)

「元祖スキー天国」

新潟県は、日本で初めてスキーが伝えられた日本のスキー発祥の地であります。その新潟県の中において日本最大級の集客を誇る苗場スキー場を訪れ、世界最長クラスの5481mのゴンドラから冬の雪景色の取材を行いました。

「温泉王国～日本国内第3位の温泉地数～」

温泉王国新潟の数ある温泉地の中でも、川端康成(日本初のノーベル文学賞を受賞した小説家)の小説「雪国」の舞台となったことで有名な越後湯沢温泉を取材しました。小説「雪国」の冒頭で「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」とあるように、取材中も雪が降り続き、正に雪国そのものの風景を先生自身も体感されていました。

また、そのほか開湯から700年を迎える村杉温泉を訪れました。村杉温泉の泉質は、日本でも数が少なく貴重なラジウム温泉で、痛風、動脈硬化症、高血圧、慢性胆嚢炎、胆石症、神経痛、慢性皮膚病、慢性婦人病などへの効能があり、入浴による効果はもちろんですが、飲泉や気体(ラドン)を鼻や口から吸い込むことでもより高い効果が得られると言われている温泉です。ホ画伯も実際に入浴し、その効能を確かめておられました。

「日本酒のふるさと」

新潟県には、酒造りの要と言われる「気候」「米」「水」「醸造技術」の4つが揃っているため、新潟の日本酒は、日本国内でも人気が高いものとなっています。

また、新潟県には95の酒蔵があり、1県あたりの酒蔵の数は日本国内で最も多く正に日本酒のふるさとです。

数ある酒蔵の中で今回は、八海醸造の酒蔵を取材させていただきました。

八海醸造の創業は1922年で、新潟の酒を代表し韓国でも有名な「八海山」の酒蔵です。淡麗辛口の味はとて評判が高く、ホ画伯は、説明を聞きながらメモを取るなど熱心に説明を聞いていました。

「おわりに」

小説「雪国」の舞台として有名な新潟県。雪国という環境の中、雪国ならではの文化と発展を遂げてきた新潟県、そして、今回は紹介しきれませんでした。食の宝庫でもある新潟県。4泊5日の取材を通して感じたことは、新潟県は、いろいろな魅力が本当にぎっしり詰まっている魅力あふれる地だということです。

是非この魅力が広く韓国の皆さんに伝わり、もっともっとたくさんの韓国の方が新潟を訪れる日が来ることを願っております。

最後に、今回の取材にあたり大変ご尽力いただきました、新潟県観光局観光振興課広域・国際観光室の皆様、また、暖かいおもてなしの心でご対応いただいた取材先の皆様、この場をお借りしてお礼申し上げます。

25日



日本の漫画を鑑賞するホ画伯

26日



雪化粧の「塩沢宿・牧之通」

27日



日本酒の銘柄を確認するホ画伯



좋은아침: 良い朝

マスコミを活用した日本の地域の魅力発信

韓国のテレビ放送局「SBS」のトークショーにおいて放送する
韓国人芸能人の旅行記の撮影協力を行いました。

事業内容

[自治体]

- ・取材、撮影場所の推薦及び情報提供、撮影場所・施設等への協力依頼
- ・取材、撮影時の協力(案内、通訳)
- ・取材、撮影団の滞在費負担(宿泊費、移動費、施設使用料等、日本国内で必要な経費)

[CLAIR]

- ・日本の地域の情報提供、コンセプトにあった取材・撮影先の検討
- ・自治体と制作会社間との調整(韓国から日本への取材同行を含む)

期待される効果

一般消費者に対して比較的少ない費用で大きな広報効果を得ることができ、知名度が向上することにより、韓国で拡大している個人旅行者の当該地域への呼び込みが期待できます。

岡山での取材内容

- ・撮影日程 : 2011年11月5日(土)~8日(火)
- ・撮影団 : 芸能人オム・エンラン他3名、SBSカメラマン
- ・放送日 : 2011年12月20日(火)
- ・内容 : 食事は「ばら寿司」やご当地グルメ「カキオコ」等、温泉は「湯原温泉」、歴史的・伝統的な景観・旧跡として「岡山城」や「倉敷美観地区」における撮影が行われました。地元のテレビ局の取材において、オム・エンランさんは「岡山は、料理や温泉が素晴らしい。自分が生きているんだと実感したければ、どこに行けば良いのか。その答えは「岡山」このように、これから韓国で伝えていきたい。」と、笑顔で話されていました。



番組概要

- ・番組名: 좋은아침(良い朝)
- ・放送時間: 月曜日~金曜日 9:30~10:40
(VTRは30~40分程度)
- ・番組内容: 1996年から15年間放送されている朝の代表的バラエティートークショー。

韓国とJETプログラム

1993年に韓国からの参加が始まり、2012年で20周年を迎えます。これまでに300人以上の方が日本各地で活躍しています。

JETプログラムから始まる日韓交流

日韓両国の交流は、年々盛んになってきており、両国間をつなぐ韓国人JET参加者の存在意義も年々高まっています。仕事上で日韓の架け橋になっていることはもちろんですが、プライベートでも積極的に地域のお祭りに参加するなど、地元に着した活動を行っています。JETOBの中には、勤務していた自治体職員が韓国で業務を行う際に通訳を行ったり、イベントに参加したりするなど、勤務していた自治体に愛着を持つ人が多く、勤務時に築いた人々とのつながりを大切にして、勤務終了後も交流を継続し相互に行き来しています。

韓国からのJETプログラム参加者は国際交流員(CIR)が多数を占めますが、外国語指導助手(ALT)やスポーツ国際交流員(SEA)として活躍している参加者もいます。学校に配属されるALTやSEAは、それぞれ語学・スポーツという専門分野で交流を行っています。

JETのOB団体であるJETAA大韓民国支部では、日本での勤務経験を元に、日韓の相互理解の推進のため、毎年「日韓交流スピーチ大会」を開催しています。日韓両国がお互いに抱えている問題や状況、文化等について日本人は韓国語で韓国人は日本語でスピーチすることで、お互いの国のことを相手の立場からより深く理解できるようにというJETAAの思いから始まりまし

た。応募は毎年100通を超え、関心の高さをうかがうことができます。

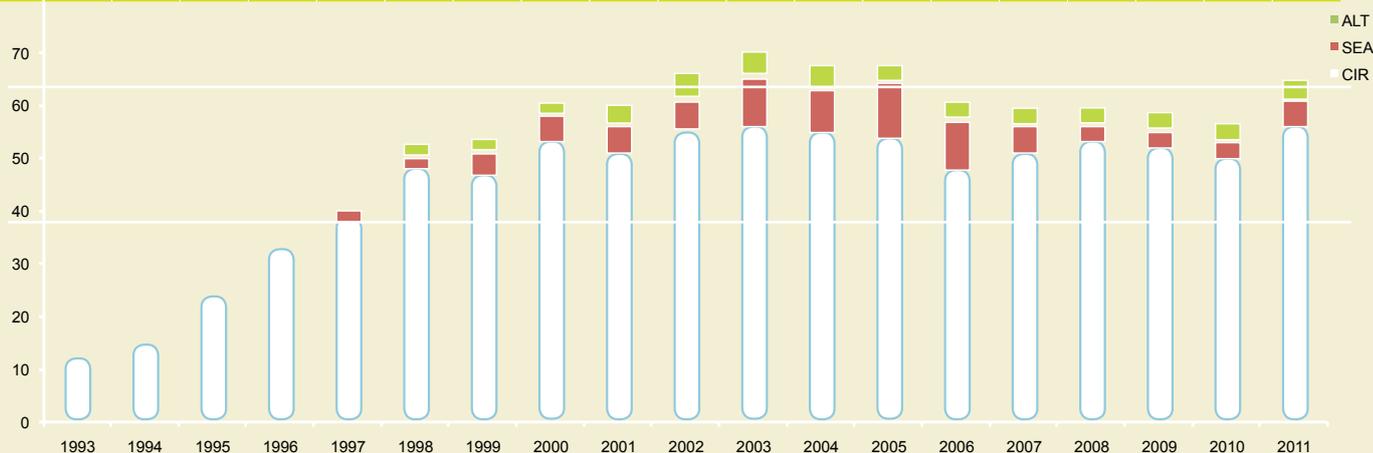
このように、JET参加者の日本に対する思いはとて強く、韓国においても日韓交流の橋渡し役として活動を行っています。

クリアソウルではJETプログラムに参加したJETOBや現在も日本各地で活躍している韓国人JET参加者の体験談をクリアソウルのHPで公開しています。日韓交流の最前線に立っているJET参加者を通じて、より広く深い日韓交流を築いてまいります。



韓国人JET参加者数の推移

年度	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
JET参加者数	12	14	24	33	40	51	52	60	59	65	69	67	67	60	59	59	58	56	64
CIR	12	14	24	33	39	48	47	53	51	55	56	55	54	48	51	53	52	50	56
SEA	0	0	0	0	1	2	4	5	5	6	9	8	10	9	5	3	3	3	5
ALT	0	0	0	0	0	1	1	2	3	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3



多くの絆で繋がっている日韓の姉妹都市

日本と韓国は地理的な近さ、歴史的なつながりから姉妹都市交流を提携している自治体が多く、姉妹提携数は138(2012年2月末現在)となっています。提携相手国別ではアメリカ・中国に次ぐ多さとなっています。姉妹都市提携のきっかけは様々ですが、青少年交流や音楽・スポーツ交流、地域のお祭りへの参加などを通して、市民の皆さんが顔を合わせて交流を行うことで、お互いの国への関心が高まり理解が深まっています。また、交流をきっかけに自分の住む街の良いところを再発見するなど、まちおこしに繋がっている事例もあります。

姉妹都市間の交流活動も活発に行われており、2011年3月の東日本大震災の際は提携している韓国自治体から多くの支援物資が日本の自治体に送られました。また、2011年9月に開催された日韓交流おまつりでは、日韓姉妹自治体の共同ブースが出展さ

れ、札幌市・大田市、仙台市・光州市や静岡県・済州特別自治道・忠清南道、藤枝市・楊州市が協力しながらそれぞれの自治体PRを行いました。

2011年7月からは、在韓日本大使館の広報誌「イルボネ・セソシク」において韓国と姉妹都市を提携している自治体を紹介しています。地域のお祭りや歴史を活かした草の根の交流と併せて地域のPRを行い、多種多様な地方の魅力を韓国に発信しています。

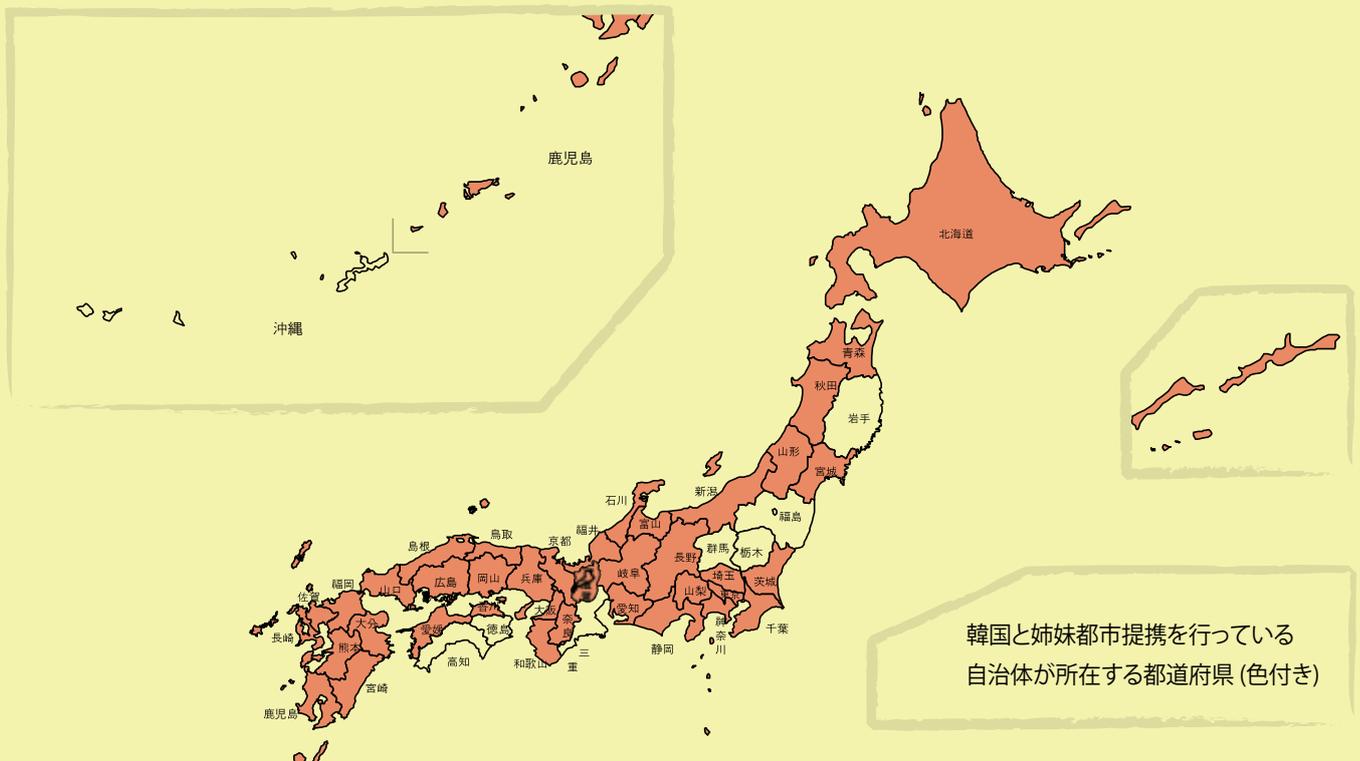
クエアソウルでは、日韓の姉妹都市提携の支援を行っているほか、クエア本部ホームページへの情報掲載を行っています。韓国と姉妹都市交流を行いたいけれど、相手先自治体が決まっていない、詳しい情報を知りたいという場合は、クエアソウルにご一報ください。



「日韓交流まつり」



「イルボネ・セソシク」



韓国と姉妹都市提携を行っている自治体が所在する都道府県(色付き)

韓国地方行政研究院との共同セミナー

クレアソウル事務所では2009年12月に、韓国の地方自治に関する総合的な政策研究機関（政府系機関）である「韓国地方行政研究院（KRILA・クリラ）」と「協力及び情報交流に関する協約（MOU）」を締結し、共同で研究活動やシンポジウムを開催しています。

今年度は日韓地方自治体の防災対策をテーマに、片山善博前総務大臣を始めとする日韓の有識者を招いて2011年11月17日（木）にシンポジウムを開催しました。

基調講演「東日本大震災への対応とその教訓」前総務大臣 片山 善博 氏

まず我が国の前総務大臣である片山善博氏が基調講演を行いました。

片山氏は、東日本大震災発生当時、総務大臣として、災害地域への支援対応、国と自治体間の調整を担われました。その経験を踏まえ、東日本大震災の特徴（壊滅的被害を受けた自治体が多く、中には庁舎が津波でなくなってしまったケースもある）の他、国や自治体による被災地支援の様子やその際に直面した課題（交通網や通信手段の途絶）について述べられました。この震災の教訓として、①防災訓練が形骸化していないか、もう一度検証する必要がある、②いざとなったら、自分の身は自分で守る意識が大事である、③国・県・市町村の相互協力関係を平時から築いておくことが大切、ということを挙げられました。

第1セッション「日韓の大型災害の事例、対策について」

発表者	①韓国側	海洋警察庁防除企画課事務官	李勝煥氏
	②日本側	兵庫県防災監	藤原雅人氏
討論者	①日本側	自治体国際化協会理事長	木村陽子氏
	②日本側	宮城県ソウル事務所長	阿部貴夫氏
	③韓国側	江原大学災難管理工学科	白珉浩氏
	④韓国側	国立防災研究院	金賢珠氏
司会者	富士常葉大学大学院環境防災研究科教授	田中聡氏	

第1セッションの様子



次に第1セッションでは、富士常葉大学大学院環境防災研究科教授田中聡氏の司会のもと、まず、韓国側から李勝煥海洋警察庁防除企画官が発表を行いました。

韓国では2007年に、東シナ海沿岸部沖合でタンカーの衝突が原因で原油が海中に大量に流出する事故がありました。この事故を通じて、海洋汚染事故時の指揮体系を一元化し、またそれぞれの行政機関ごとの任務、役割を明確化したそうです。また、地元自治体の海岸防除活動を支援するために「海岸防除支援システム」を構築しているとのことでした。

また、日本側からは兵庫県防災監藤原雅人氏が、1995年1月の阪神・淡路大震災からの復旧・復興を中心に発表され、これまでの災害から学んだ教訓として「自助」「共助」「公助」の精神の重要性が挙げられました。

まずは自分の命は自分で守り、さらに近隣住民がお互い助け合い、公(自治体)がこれらをバックアップする社会を目指さなければならないと述べられました。

その後、日本側からはクリアの木村陽子理事長と宮城県ソウル事務所の阿部貴夫所長が、韓国側からは江原大学の白珉浩先生と国立防災研究院の金賢珠安全管理チーム長が討論を行いました。

第2セッション 韓国・日本の都市型水害事例、対策

発表者	①韓国側	ソウル市政開発研究院環境安全研究委員	金暎蘭氏
	②日本側	東京都土砂災害対策担当課長	齊藤有氏
討論者	①日本側	富士常葉大学大学院環境防災研究科教授	田中聡氏
	②韓国側	国立防災研究院防災研究室長	沈在鉉氏
	③韓国側	韓国防災協会	崔成烈氏
	④韓国側	韓国地方行政研究院研究委員	金玄鎬氏
司会者延	延世大学社会環境システム工学部教授	趙元喆氏	



第2セッションの様子

第2セッションでは、ソウル市政開発研究院環境安全研究委員の金暎蘭氏がソウル市の最近のゲリラ型豪雨について発表しました。ソウル市でも近年、短時間に激しい降雨に見舞われるゲリラ型豪雨が頻発しています。ソウル市としては、排水施設や貯留施設の改善等の取り組みを始めているそうです。

つづいて、日本側からは東京都土砂災害対策担当課長齊藤有氏が発表しました。都ではゲリラ豪雨により、浸水が予想される区域をハザードマップとして発表し、住民自らも災害へ備えるよう促していると述べました。

この後、日本側から富士常葉大学大学院環境防災研究科の田中聡教授、韓国側からは国立防災研究院防災研究室長沈在鉉氏、韓国防災協会崔成烈氏、韓国地方行政研究院研究委員金玄鎬氏が上記テーマについて討論を行いました。

本セミナーには、日韓の行政職員や研究者、学生など、約230人が来場し、熱心にメモをとる姿などが見られました。日韓の地方自治の共通課題である防災対策について議論した本セミナーは、両国の関係者にとって時宜を得た、大変有意義なものでした。



片山善博前総務大臣

自治体からの海外情報調査依頼

クレアの海外事務所では、地方公共団体等の事業や政策立案に必要な海外の情報収集及び行財政制度等の調査を、自治体等の依頼に基づいて行い、情報の提供を行っています。

またソウル事務所に関してみれば、日本の自治体からだけではなく、韓国内の自治体等からの調査の依頼も可能な限り引き受けネットワークづくりに活かしています。その数は年間60～70件程度になり、内容も下記のように様々です。

2011年度調査依頼の一例

日本からの依頼	韓国からの依頼
<ul style="list-style-type: none"> ・韓国の付加価値税について ・韓国にあるMICE施設 ・韓国での社会的弱者のための防火設備対策の現状について 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本自治体による海外への開発援助の現状 ・日本の高校における韓国語授業実施について ・日本での生ゴミ減量政策について

自治体等からの調査依頼の流れ



また、本部を通じて実施した海外事務所の調査内容は、年度ごとにリストを作成し、それを協会各支部へ送付しています。

依頼者以外の自治体等も、この調査リストに記載された調査の結果について、クリアに対し、その提供を求めることができます。



活動支援について

クレア海外事務所では、地方自治関係者(自治体の職員等)が海外で行う様々な活動について支援を行っています。クレアソウルでは、韓国内での日本の自治体のみなさまの活動をサポートしており、今年度は以下のような活動で来韓されたみなさまのサポートを行いました。

	ソウル事務所が行った活動支援対象事業 件数
観光プロモーション	38
経済関連事業	24
親善交流	15
視察研修	11
その他	29
合計	117

(2011.4月～2012.2月実施分、複数カウント)

クレア活動支援の概要

クレアが行う海外活動支援のメニューの例は次のとおりです。

《活動の計画・事前準備に必要な支援》

- ① 訪問先、調査先の選定支援など海外活動の企画にかかる相談
- ② 訪問先、調査先へのアポイントの取付け、連絡調整

《現地活動への人的サポートの提供又は照会・手配》

- ③ 海外事務所職員による訪問先等へのアテンド
- ④ 海外事務所職員によるイベント支援
- ⑤ イベント等にかかるサポート人員の紹介
- ⑥ 通訳のあっせん

《現地活動に必要な施設・備品等の提供又は紹介・手配》

- ⑦ 現地での一時的連絡拠点用の事務スペース・備品等の貸出・提供
- ⑧ 現地での会場用施設提供又はあっせん
- ⑨ 資料や活動物資等の一時的な預かり
- ⑩ 車両手配

《現地情報や活動ノウハウ等の提供》

- ⑪ 事務所からのブリーフィング



活動支援を利用いただくにあたりましては、おおよそ次のような流れになります。





2011年3月11日の東日本大震災の発生から早くも1年が経過しました。

この間、韓国の皆様からは、震災発生直後から、いち早く多大なご支援をいただき、また、驚くほど多くの方から心温まるあたたかいお言葉を頂戴しました。凶らずも大震災が日韓の絆の深さを浮き彫りにしたように思います。

そして、私ども自治体国際化協会ソウル事務所では、韓国における日本の自治体の総合窓口として、国民全体が一丸となり「復旧」から「復興」へと歩みを進め、これまで以上に魅力あふれる元気一杯の日本を創ろうと頑張っている日本の「今の」「元気な」姿を韓国の皆様にお伝えすべく、様々な取り組みを進めております。今回のニュースレターでは、そのいくつかを紹介させていただきました。

これまで以上により多くの韓国の皆様が日本においていただき、日本の各地域を味わい、楽しみ、そして交流していただくことを目指し、そしてそのことが、全ての地域にとって一番の「復興支援」となることを願いつつ、今後とも日韓交流の最前線で取り組みを進めてまいります。

クリアソウル事務所長 安本 俊夫

